



⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書

XJR1300

XJR1300

5UX-28199-J9

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡ししてください。

※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために	1-1
あなた自身と同乗者のために	1-1
歩行者と他の車のために	1-5
環境・住民の方との調和のために	1-5

各部の名称	2-1
左側面	2-1
右側面	2-2
運転装置と計器類	2-3

各部の取り扱いと操作	3-1
キーの取り扱い	3-1
イモビライザーシステム	3-1
メインスイッチ	3-2
警告灯と表示灯	3-3
スピードメーター	3-4
タコメーター	3-5
マルチファンクション ディスプレイ	3-5
盗難警報器（オプション）	3-8
ハンドルスイッチ	3-8
フューエルタンクキャップ	3-10
燃料	3-11
シート	3-11
ヘルメットホルダー	3-12
書類入れ	3-12
小物入れ	3-13
フロントフォークの調整	3-13
リヤクッションの調整	3-15
荷掛けフック	3-17
ブレーキレバー／クラッチレバーの 握り調整	3-18

サイドスタンド	3-18
イグニッションサーキット カットオフシステム	3-19

日常点検	4-1
日常点検の実施	4-1
日常点検箇所／点検内容	4-1

運転操作	5-1
エンジン始動	5-1
ギヤチェンジのしかた	5-2
ならし運転	5-2
駐車	5-2

点検整備	6-1
点検整備の実施	6-1
サービスツール	6-2
カバーの取り外し、取り付け	6-2
エンジンオイル	6-3
エンジンのかかり具合、 異音の点検	6-4
低速、加速の状態の点検	6-5
エアクリナーエレメントの交換	6-5
タイヤ	6-6
クラッチ	6-8
ブレーキレバーの遊び／ブレーキ ペダルの遊び、およびブレーキの きき具合の点検	6-9
ブレーキランプスイッチ	6-9
ブレーキパッドの点検	6-10
ブレーキ液量の点検	6-10
ブレーキ液の補給	6-11

ドライブチェーン	6-12
ドライブチェーンの給油	6-13
バックミラー	6-13
車体各部の給油脂状態の点検	6-13
アンダーブラケットの 取り付け状態の点検 （ステアリングシステム）	6-14
バッテリー	6-14
ヒューズ交換	6-15
灯火装置および方向指示灯の点検	6-17
運行において異常が認められた 箇所の点検	6-17

お車の手入れ	7-1
洗車	7-1
キャストホイールの取り扱い	7-2
保管のしかた	7-2
アフターケア用品について	7-3

製品仕様	8-1
------	-----

ユーザー情報	9-1
二輪車を廃棄する場合は？	9-1
サービスマニュアル（別売）の 紹介	9-2
車両情報	9-2

JAU27280

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

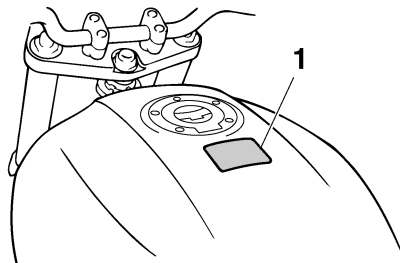
JAU27377

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

警告

- ・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ・マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ・ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- ・違法改造はやめましょう。
- ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットはPSCまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。



- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。

安全運転のために

1

- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
 - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの
 - 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン
- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。
 - ズボンのすそや袖口の広い服
 - 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服
 - ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服



- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

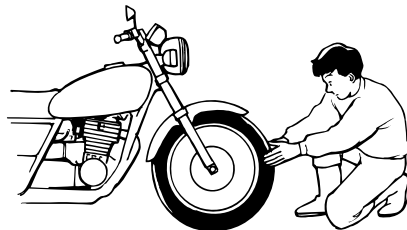
警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

JWA11600

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた日常点検を運転する前に行ってください。また、法令で定められた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。



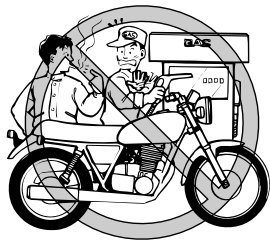
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音がしたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

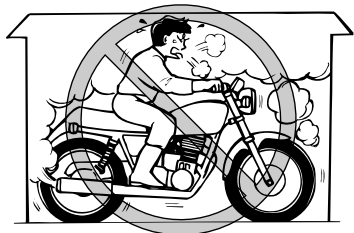
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

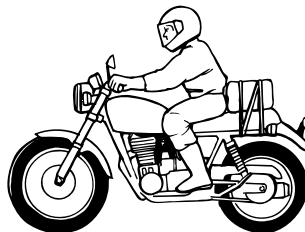
排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。



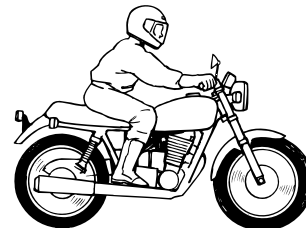
荷物はしっかり固定する

- 荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。
- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。



両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときには、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



乗車定員は2名

ただし、免許取得後1年未満の運転者は、法令により2人乗りはできません。

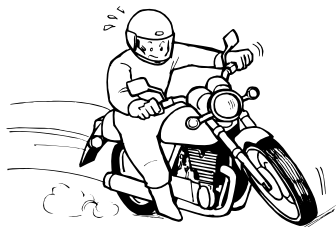
また、高速道路（2人乗りが許可されている高速道路）においては、20才以上で、免許取得後3年を経過した運転者でなければ2人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

安全運転のために

1



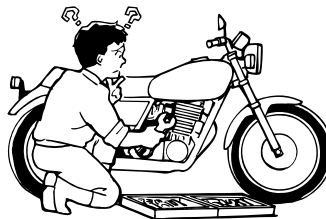
誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチやエンジンストップスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



注意

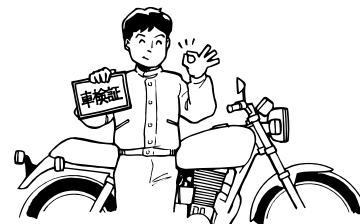
JCA15220

部品交換が必要な場合は正規の規格のものを使用するよう、販売店へ依頼してください。規格が異なった部品を使用すると、故障などの原因となります。

継続検査（車検）を受ける

二輪の小型自動車（251 cm³以上）は、国で定める継続検査を受けなければ使用できません。また、初回の継続検査は新規登録日から3年後に受け、2回目以降の継続検査はその後2年ごとに受けます。

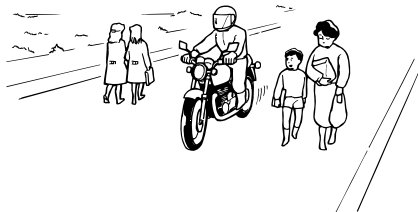
検査の有効期間満了前に必ず、継続検査を受けてください。



歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。

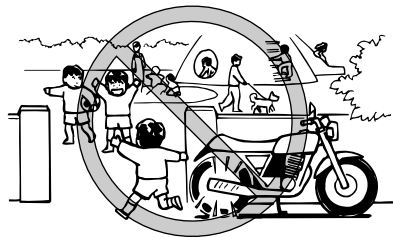


駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

JAU27501

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。



JWA12240

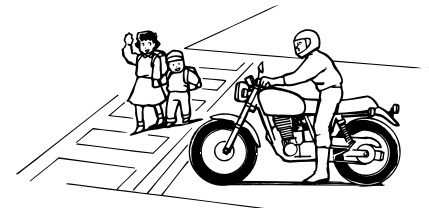
警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。

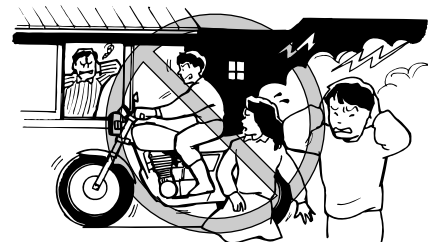
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



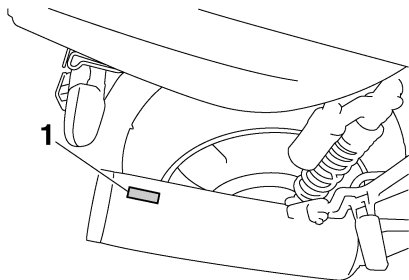
特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



安全運転のために

違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。

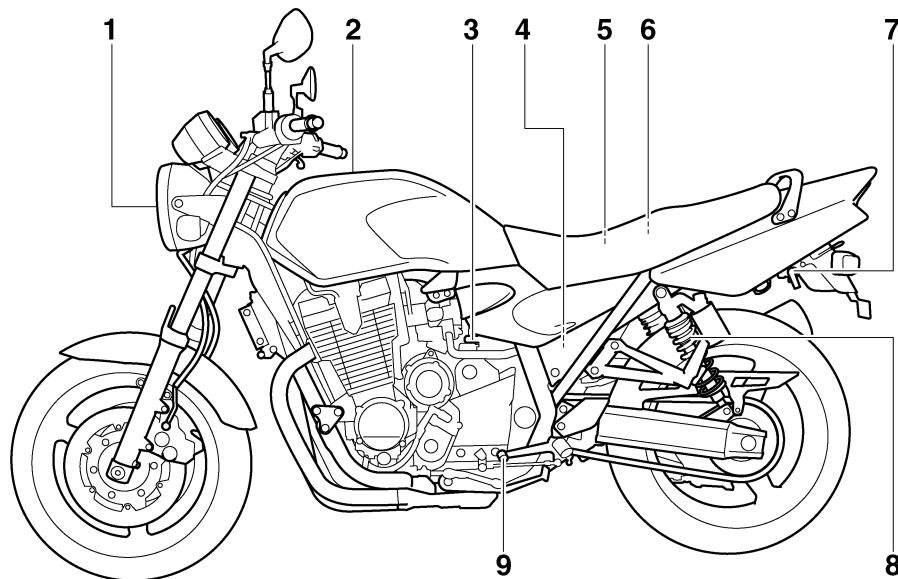


1. “YAMAHA” マーク

環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

左側面

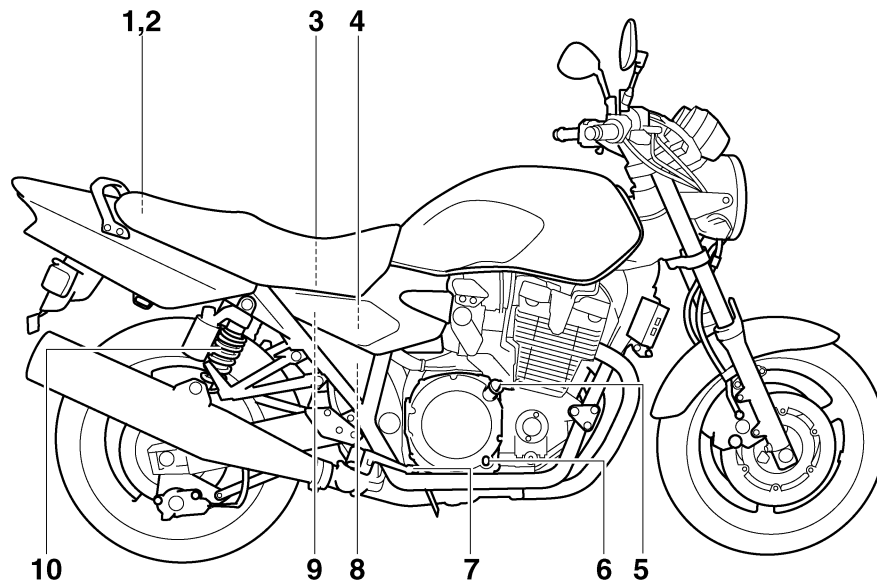


1. ヘッドライト
2. フューエルタンクキャップ (P3-10)
3. ブローバイガス還元装置のブリーザー dren ホース (P 6-5)
4. ヒューズボックス (P 6-15)
5. メインヒューズ (P6-15)
6. サービスツール (P6-2)
7. シートロック／ヘルメットホルダー (P3-11/P3-12)
8. リヤクッション (P3-15)
9. シフトペダル (P5-2)

各部の名称

JAU10420

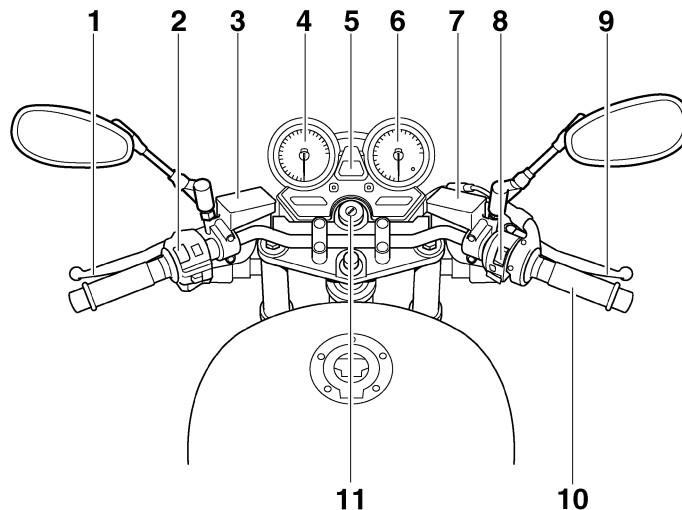
右側面



1. 小物入れ (P3-13)
2. 書類入れ (P3-12)
3. バッテリー (P6-14)
4. エアクリーターエレメント (P 6-5)
5. オイル注入口 (P6-3)
6. エンジンオイル点検窓 (P6-3)
7. ブレーキペダル (P 6-9)
8. ブレーキランプスイッチ (P6-9)
9. リヤブレーキフルードリザーバータンク (P6-10/P6-11)

10. リヤクッション (P3-15)

運転装置と計器類



1. クラッチレバー (P6-8)
2. ハンドルスイッチ (左) (P3-8)
3. クラッチフルードリザーバタンク (P6-8)
4. スピードメーター (P3-4)
5. マルチファンクションディスプレイ (P3-5)
6. タコメーター (P3-5)
7. フロントブレーキフルードリザーバタンク (P6-10/P6-11)
8. ハンドルスイッチ (右) (P3-8)
9. ブレーキレバー (P6-9)

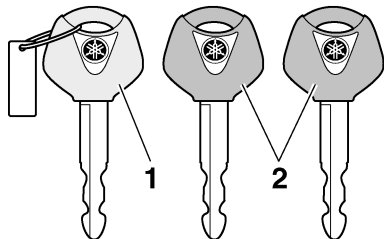
10. スロットルグリップ
11. メインスイッチ/ハンドルロック (P3-2)

各部の取り扱いと操作

JAU33072

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが1本とマスコット部が黒いサブキーが2本あります。メインキーはサブキーのIDを登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

JCA12772

注意

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーのIDを登録することができなくなります。また、3本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。

- キーを水に浸けないでください。
- キーを高温になる場所に置かないでください。
- キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。
- キーに電波を発信するものを近づけないでください。
- キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。
- キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。
- キーを分解しないでください。
- 複数のイモビライザーキー（この車のキーも含みます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。IDの認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。
- 金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

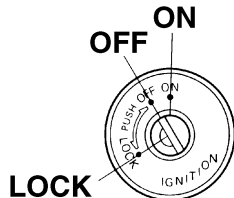
JAU26892

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有のIDを持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録されたIDのキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は3-4ページを参照してください。）

メインスイッチ

JAU10460



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA11610



警告

走行中にメインスイッチを OFF の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11971

注意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドル状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

要点

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

ON

JAU43360

全ての電気回路に電源が供給され、メーター灯、テールランプとナンバー灯が点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを OFF にするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

OFF

JAU46010

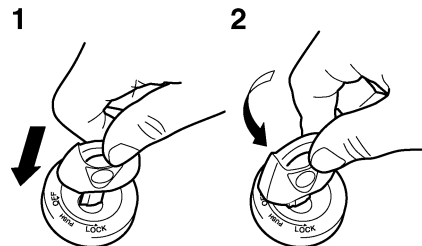
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

LOCK

JAU10691

ハンドルがロックされます。全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた

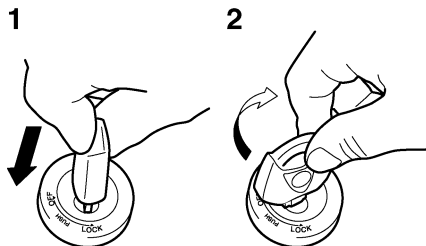


1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左または右にいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

各部の取り扱いと操作

ハンドルロックの解除のしかた



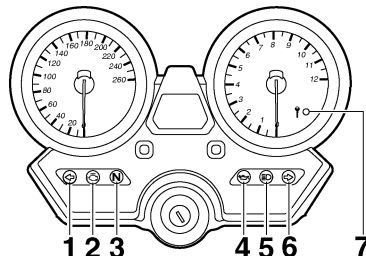
LOCK の位置でキーを押しこみ、そのまま OFF まで回します。

JWA11450

警告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停止中に操作してください。

警告灯と表示灯



1. 方向指示器表示灯 (左) “◁”
2. エンジン警告灯 “ ”
3. ニュートラルランプ “N”
4. エンジンオイル量警告灯 “ ”
5. ヘッドライト上向き表示灯 “ ”
6. 方向指示器表示灯 (右) “▷”
7. イモビライザーシステム表示灯

方向指示器表示灯 “◁/▷”
方向指示にあわせて点滅します。

ニュートラルランプ “N”
ギヤがニュートラルのとき点灯します。

ヘッドライト上向き表示灯 “ ”
ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU11004

JAU11123

エンジンオイル量警告灯 “ ”

エンジンオイル量が少なくなると点灯します。

警告灯の電気回路は、以下の手順に従って点検することができます。

1. メインスイッチを ON にします。
2. 警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯することを点検します。

要 点

- 警告灯が点灯しないときや、点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。
- エンジンオイル量が充分であっても、坂道を走行しているときや急な加減速を行ったときは警告灯が点滅することがありますが、これは異常ではありません。

JCA12950

注 意

- 何度も点滅したり、点灯したままになるときは、エンジンオイル量を点検してください。不足しているときは、早めに補給してください。オイル量が正常なときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- 警告灯が点灯したまま走行すると、故障の原因となります。

JAU11030

JAU11060

JAU11080

エンジン警告灯 “ ”

JAU43023

エンジンの電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯するか、点滅します。ヤマハ販売店で点検を受けてください。

要 点

- キーを ON にしたとき、警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯します。点灯しないときや消灯しないときは、ヤマハ販売店で点検を受けてください。
- スタータースイッチを押している間、警告灯が点灯することがありますが、これは異常ではありません。

イモビライザーシステム表示灯

JAU38913

この車は、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。メインスイッチを OFF にすると、イモビライザーシステムが機能し、メインスイッチ OFF 後、約 30 秒経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。その後、約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要 点

表示灯の球切れや回路点検のため、メインスイッチを ON にすると表示灯がいったん点灯し、すぐに消灯します。点灯しないときや点灯したままになっているときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

自己診断機能

この車は、イモビライザーシステムの異常を知らせる自己診断機能を装備しています。メインスイッチが ON の状態であれば、エンジンが運転中か停止中かにかかわらず、検出した異常内容のコードをイモビライザーシステム表示灯の点灯または点滅で表示します。

JCA12750

注 意

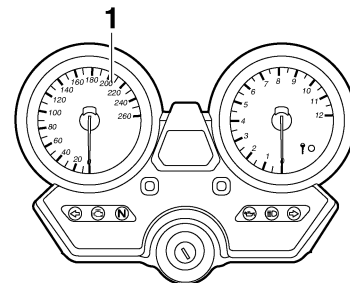
自己診断機能が働いたときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

イモビライザーシステム表示灯が長く 5 回点滅した後、短く 2 回点滅するパターンの異常コード表示を繰り返したときは、キーの ID の認識が妨げられた可能性があります。3 本のキー全てで、エンジンが始動できるかを確認してください。エンジンの始動ができないキーがあった場合には、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

要 点

他のイモビライザーキーをメインスイッチに近づけたり、複数のイモビライザーキーを同じキーリングにつけたりしないでください。（この車のキーも含まれます。）ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあります。

スピードメーター



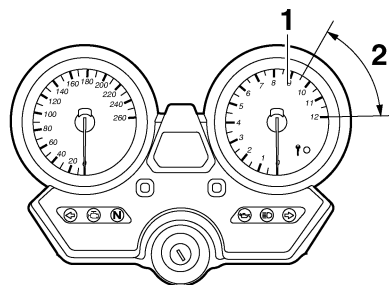
1. スピードメーター

車の速度を示します。電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、指針が一旦最大値を示し、“0”に戻ります。

各部の取り扱いと操作

タコメーター

JAU433802



1. タコメーター
2. レッドゾーン

毎分のエンジン回転数を示します。
電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、指針が一旦最大値を示し、
“0”に戻ります。

JCA12961

注意

タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。レッドゾーン：
9500 r/min 以上

マルチファンクションディスプレイ

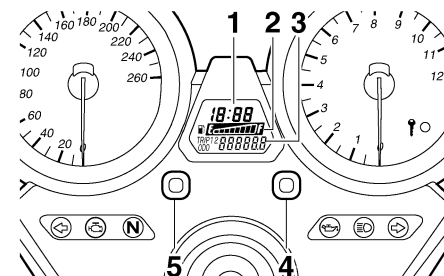
JAU43248

JWA12160



警告

表示の切り替え、時刻調整などの操作は必ず、停車中に行ってください。



1. 時計
2. 燃料計
3. オドメーター/トリップメーター/フューエルトリップメーター
4. リセットスイッチ
5. セレクトスイッチ

マルチファンクションディスプレイには以下の機能があります。

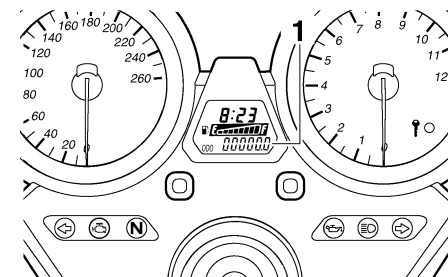
- オドメーター（走行した総距離を表示します。）
- トリップメーター1 / トリップメーター2（リセットしてからの走行距離を積算します。）

- フューエルトリップメーター（燃料警告表示が点滅してからの走行距離を表示します。）
- 燃料計
- 時計
- 自己診断機能
- メーター照明の調整

要 点

- セレクトスイッチやリセットスイッチを使用するときは、メインスイッチを ON にしてください。
- メインスイッチを ON にすると、全てのセグメントを表示し、約 2 秒後通常表示になります。このときマルチファンクションディスプレイは回路の点検を行っています。

オドメーター／トリップメーター



1. オドメーター／トリップメーター／フューエルトリップメーター

セレクトスイッチを押すごとに、オドメーターモード“ODO”とトリップメーターモード“TRIP”が下記の順で切り替わります。

ODO → TRIP 1 → TRIP 2 → ODO
 フューエルタンクのガソリンの残量が約4.5 L になると、燃料警告表示“”が点滅し、表示は自動的にフューエルトリップメーターモード“TRIP F”に切り替わって、その時点からの走行距離を表示します。このときセレクトスイッチを押すと、オドメーターモード“ODO”とトリップメーターモード“TRIP”は下記の順に切り替わります。

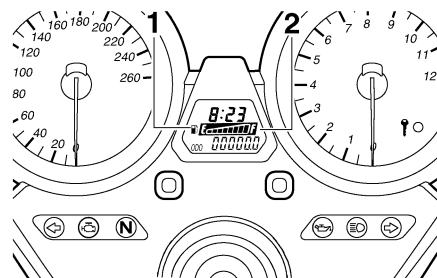
TRIP F → ODO → TRIP 1 → TRIP 2 → TRIP F

トリップメーターのリセットは、セレクトスイッチを押してリセットしたいトリップメーターを表示させてからリセットスイッチを2秒以上押します。フューエルトリップメーターはリセットしなくても、ガソリンを給油後約5 km 走行すると自動的にトリップメーターの表示になります。

要 点

フューエルトリップメーター表示“TRIP F”をリセットすると、再度フューエルトリップメーター表示“TRIP F”に戻すことはできません。

燃料計



1. 燃料警告表示 “”
2. 燃料計

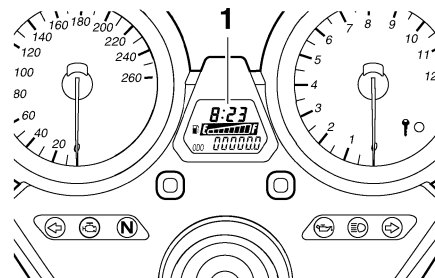
メインスイッチを ON にするとフューエルタンクのガソリンの残量を表示します。ガソリンの残量が減ると燃料計のセグメントの数が減ります。ガソリンの残量が少なくなると燃料警告表示“”が点滅して知らせます。ガソリンの残量が少なくなったら、早めに補給してください。

要 点

残量の確認は、平坦な場所でメインスタンドを立て、メインスイッチを ON にしてください。

この燃料計は、電気回路の自己診断機能を装備しています。回路に異常が発生したときは、すべてのセグメントと燃料警告表示“”が点滅します。自己診断機能が働いたときは、早めにヤマハ販売店で点検を受けてください。

時計



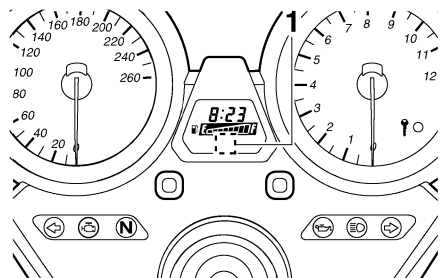
1. 時計

時刻調整のしかた

1. セレクトスイッチとリセットスイッチを同時に2秒以上押します。
2. <時>の表示が点滅したら、リセットスイッチを押して<時>を合わせます。
3. セレクトスイッチを押すと、<分>の表示が点滅します。
4. リセットスイッチを押して<分>を合わせます。
5. セレクトスイッチを押すと、時刻調整が完了し、時計表示に戻ります。

各部の取り扱いと操作

自己診断機能



1. エラーコード表示

このモデルには電気回路の自己診断装置が備わっています。

回路のいずれかが故障した場合、マルチファンクションディスプレイにエラーコードが表示されます。

マルチファンクションディスプレイにエラーコード 52 が表示したときは、キーの ID の認識が妨げられた可能性があります。3 本のキー全てで、エンジンが始動できるかを確認してください。エンジンの始動ができないキーがあった場合には、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

要 点

他のイモビライザーキーをメインスイッチに近づけたり、複数のイモビライザーキーを同じキーリングにつけたりしないでくださ

い。(この車のキーも含まれます。) ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあります。

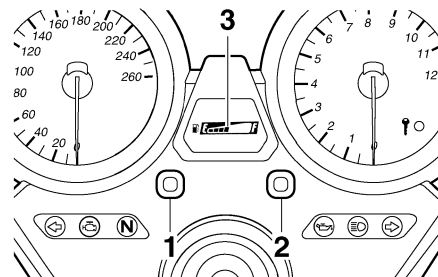
マルチファンクションディスプレイにエラーコードが表示された場合、エラーコードを控え、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

JCA13001

注 意

マルチファンクションディスプレイがエラーコードを表示しているときは、エンジンの損傷を防ぐために、できるだけ早く点検を受けてください。

メーター照明の調整



1. セレクトスイッチ
2. リセットスイッチ
3. 燃料計

メーター照明の調整のしかた

この車のメーター（マルチファンクションディスプレイを含む）には、照明の明るさを調整できる機能があります。

調整は、以下の手順で行ってください。

JWA14850

警告

メーター照明の調整をするときは、安全な場所に車を停車させて行ってください。

1. メインスイッチが OFF の状態でセレクトスイッチを押し、そのままメインスイッチを ON にして約 5 秒間待ちます。約 5 秒の間に通常メインスイッチを ON にしたときのメーターの初期表示が行われ、その後、マルチファンクションディスプレイの表示が燃料計だけになって、現在設定されているメーター照明の明るさを示す数のセグメントが点滅します。
2. セレクトスイッチを離します。
3. リセットスイッチを押して、明るさを調整します。
リセットスイッチを 1 回押すごとに点滅しているセグメントの数が 1 個ずつ増え、同時にスピードメーター、タコメーター、マルチファンクションディスプレイの照明が明るくなります。
燃料計のセグメントが 8 個点滅しているとき（一番明るい設定のとき）にリセットスイッチを押すと、セグメントの点滅数が 1 個になり、各メーターの照明が暗くなります。

4. 希望する明るさになったら、セレクトスイッチを押します。
メーター照明の設定が保存され、マルチファンクションディスプレイの表示が通常表示になります。

要 点

- メーター照明の調整中でも、エンジンの始動は可能です。
- メーター照明の調整中に走行を始めたりメインスイッチを OFF にしたときは、その直前に調整されていた設定が保存されます。

盗難警報器（オプション）

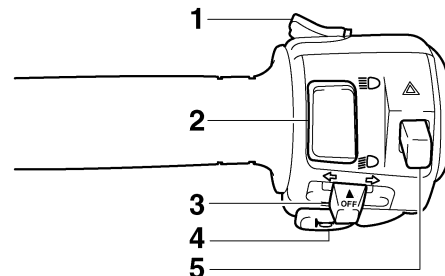
この車には、オプションで盗難警報器を装着することができます。装着については、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU12331

ハンドルスイッチ

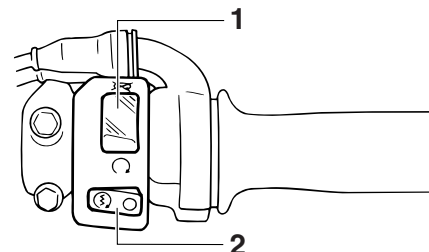
JAU12348

左



1. パッシングライトスイッチ “PASS”
2. ヘッドライト上下切り替えスイッチ “/ ”
3. 方向指示器スイッチ “/ ”
4. ホーンスイッチ “ ”
5. ハザードスイッチ “ ”

右



1. エンジンストップスイッチ “/ ”
2. スタータースイッチ “ ”

各部の取り扱いと操作

3

パッシングライトスイッチ“PASS”

JAU12360

ヘッドライトの向上きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要 点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが $\equiv$ 〇のときは、使用できません。

ヘッドライト上下切り替えスイッチ“ $\equiv$ 〇/ $\equiv$ 〇”

JAU12400

ヘッドライトの配光を向上き、下向きに切り替えるスイッチです。

$\equiv$ 〇（上向き）：遠くを照らします。

$\equiv$ 〇（下向き）：近くを照らします。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き“ $\equiv$ 〇”にしてください。

方向指示器スイッチ“ $\triangleleft$ $\triangleright$ ”

JAU12460

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

$\triangleright$ ：右側の方向指示灯が点滅します。

$\triangleleft$ ：左側の方向指示灯が点滅します。

⚠ 警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

JWA11640

注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JCA11981

ホーンスイッチ“ H ”

JAU12500

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

エンジンストップスイッチ“ $\times$ /〇”

JAU28181

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は〇にしておきます。

JWA12100

⚠ 警 告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

注 意

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中に、エンジンストップスイッチを $\bigcirc \rightarrow \times \rightarrow \bigcirc$ にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。また、排出ガス浄化装置の故障の原因となります。

要 点

$\times$ にすると、エンジンは始動できません。

スタータースイッチ“ S ”

JAU12711

このスイッチを押すと、スターターモーターが回転し、エンジンが始動します。

JCA11881

注 意

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。

ハザードスイッチ“△”

JAU33810

メインスイッチを ON にした状態でスイッチを押し、ハザードランプを点灯させます（全ての方向指示器が点滅します）。ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11890

注意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

フューエルタンクキャップ

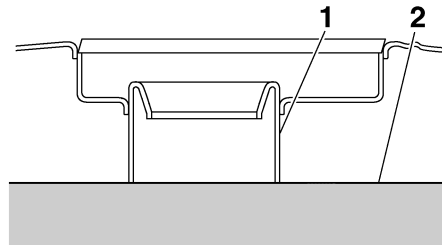
JAU13074

JWA12171

警告

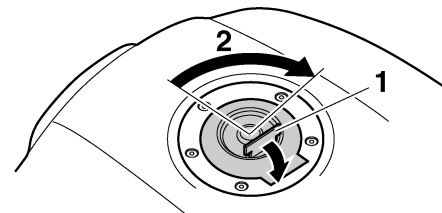
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

フューエルタンクキャップロックカバーを開け、キーをロックに差込み、時計方向に 1/4 回します。ロックが解除され、フューエルタンクキャップが開きます。

各部の取り扱いと操作

3

フューエルタンクキャップの開めかた

1. キーをロックに差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して閉めます。
2. キーを反時計方向に回して元の位置に戻し、キーを外してロックカバーを閉めます。

要 点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを開めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めない、キーを抜き取ることはできません。

燃料

JAU31460

指定燃料

JAU28331

指定燃料：
無鉛プレミアムガソリン
タンク容量：
約 21.0 L

JCA12511

注 意

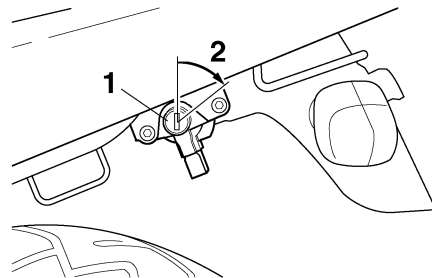
- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

シート

JAU13940

シートの取り外しかた

1. キーをシートロックに差し込み、時計方向に回します。

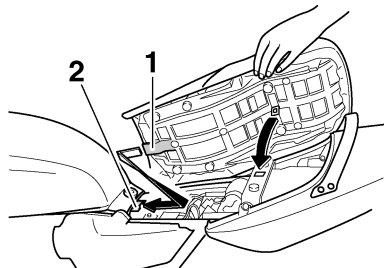


1. シートロック
2. 解除

2. シートの後部を持ち上げ、シートを取り外します。

シートの取り付けかた

1. シートの前部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込みます。



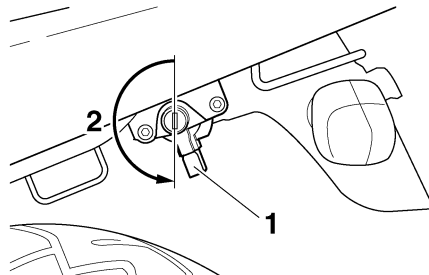
1. 突起
2. ホルダー

2. シートの後部を押し、シートをロックします。
3. キーを抜き取ります。

要 点

走行前に、必ず、シートが確実にロックされているか確認してください。

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11650



警告

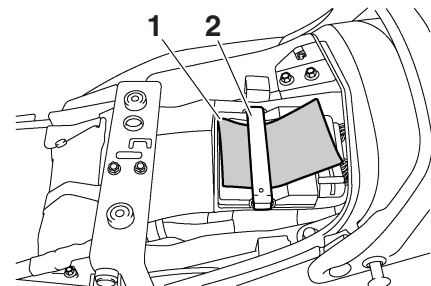
ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

書類入れ

シートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、ここに保管してください。ポーチは二つ折りにし、ゴムバンドで固定してください。

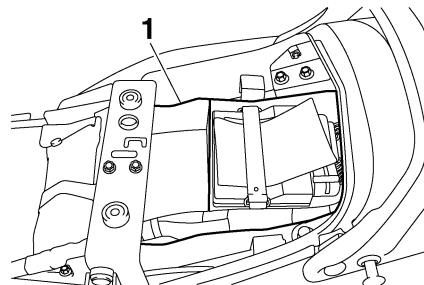


1. 書類入れ
2. ゴムバンド

各部の取り扱いと操作

小物入れ

JAU14452



1. 小物入れ

シートの下に小物入れがあります。(3-11ページ参照)

JWA12430

警告

小物入れ内に積む荷物は、荷重制限 3 kg を越えないでください。

JCA12971

注意

小物入れを使用する時は以下の点に注意してください。

- 洗車をするときに水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。
- 濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、小物入れ内にカビなどが発生することがあります。

- 貴重品やこわれやすい物はいれしないでください。
- 小物入れ内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい物はいれしないでください。

要 点

- 車から離れるときは、必ずシートをロックしてください。
- キーを小物入れ内に入れたままシートを閉じると、ロックされて開けられなくなります。注意してください。

フロントフォークの調整

JAU14742

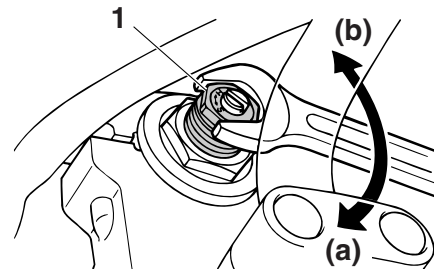
フロントフォークには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

JWA11480

警告

アジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

スプリングプリロード

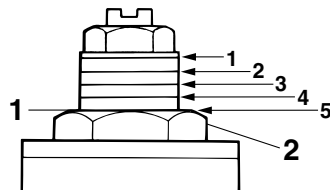


1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロードを高くしてサスペンションを硬くするには、左右のフロントフォークのアジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを低くしてサスペンションを柔らかくするには、左右のフロントフォークのアジャスターを (b) 方向に回します。

要 点

アジャスターの溝とフロントフォークキャップボルトの頭部を合わせます。



1. 調整位置
2. フロントフォークキャップボルト

スプリングプリロード：

最小（ソフト）：

8 段

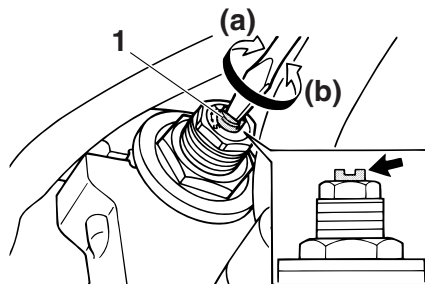
標準：

5 段

最大（ハード）：

1 段

伸側減衰力



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力を強めるには左右のフロントフォークの伸側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱めるには左右のフロントフォークの伸側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。

(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから、(b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。)

伸側減衰力：

最大（ハード）：

1 段

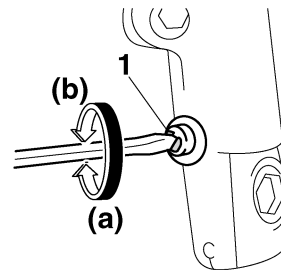
標準：

5 段

最小（ソフト）：

10 段

圧側減衰力



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力を強めるには左右のフロントフォークの圧側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。圧側減衰力を弱めるには左右のフロントフォークの圧側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。

(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから、(b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。)

圧側減衰力：

最大（ハード）：

1 段

標準：

6 段

最小（ソフト）：

13 段

各部の取り扱いと操作

JCA11910

注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

要点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

3

リヤクッションの調整

JAU43255

JWA11480

警告

アジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

JWA12440

警告

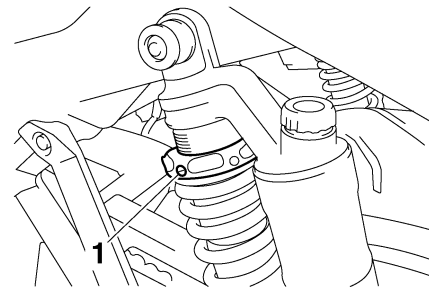
シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

スプリングプリロード

スプリングプリロードは、以下の手順で調整を行ってください。

1. ロックスクリューを1 / 2 回転ゆるめます。



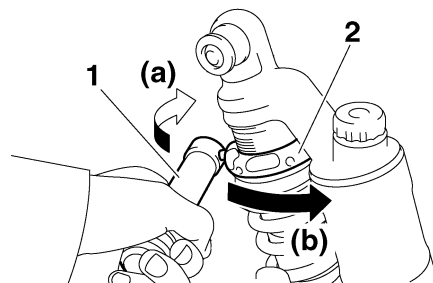
1. ロックスクリュー

2. スプリングプリロードを大きくし、サスペンションを硬くするには、アジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを小さくし、サスペンションを柔らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。

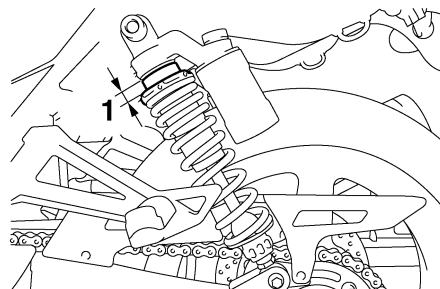
要点

- サービスツール内の調整レンチを使って調整を行います。
- スプリングプリロードのセッティングは、図のセット長 A を測定して決めます。セット長 A を長くすると、スプリングプリロードは大きくなり、セット長 A を短くすると、スプリングプリロードは小さくなります。アジャスターを1回転するごとに、セット長 A は 1.5 mm ずつ変化します。
- ロックスクリューが車体外側の位置になるようにアジャスターを調整して下さい。

各部の取り扱いと操作



1. 調整レンチ
2. スプリングプリロードアジャスター



1. セット長 A

スプリングプリロード：

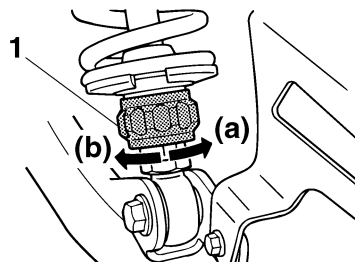
- 最小（ソフト）：
セット長 A = 0 mm
- 標準：
セット長 A = 17 mm
- 最大（ハード）：
セット長 A = 28 mm

3. ロックスクリューを締め付けます。

締め付けトルク

- ロックスクリュー
0.1 Nm (0.01 kgf·m)

伸側減衰力



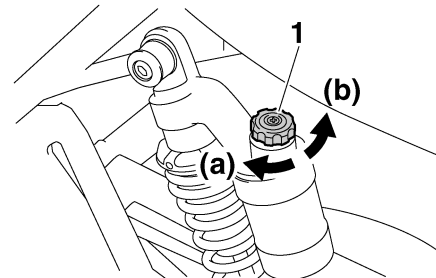
1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力を強め、サスペンションを硬くするには、アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱め、サスペンションを柔らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。
(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから、(b) 方向に戻して、初めに“カチッ”というところが1 段目です。)

伸側減衰力：

- 最小（ソフト）：
36 段
- 標準：
10 段
- 最大（ハード）
1 段

圧側減衰力



1. 圧側減衰力アジャスター

各部の取り扱いと操作

圧側減衰力を強め、サスペンションを硬くするには、アジャスターを (a) 方向に回します。圧側減衰力を弱め、サスペンションを柔らかくするには、アジャスターを (b) 方向に回します。
(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから、(b) 方向に戻して、初めに“カチッ”というところが1 段目です。)

3

圧側減衰力：

最小 (ソフト)

20 段

標準：

16 段

最大 (ハード)：

1 段

JCA11910

注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

要点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JWA12450

警告

切り替えるときに異常がありましたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA10221

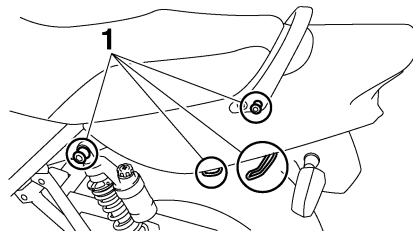
警告

リヤクッションユニットには高圧窒素ガスが封入されています。リヤクッションユニットを取り扱う場合は、必ず下記のことを厳守してください。

- シリンダー本体を加工または分解しないでください。
- リヤクッションユニットを火気の中に投げ込まないでください。高温にさらすとガスが膨張し、爆発するおそれがあります。
- シリンダーを変形させたりダメージを与えないでください。これを行うと、減衰力が低下するおそれがあります。
- 損傷または変形したリヤクッションユニットを、ご自分で処分しないでください。リヤクッションユニットの処分が必要なときは、ヤマハ販売店にご相談ください。
- 点検整備については、必ずヤマハ販売店で実施してください。

JAU34610

荷掛けフック



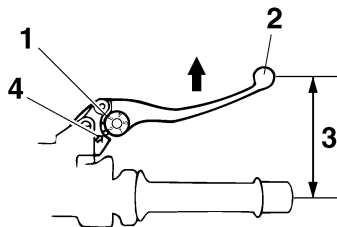
1. 荷掛けフック

荷掛けフックは8 個あります。そのうち2 個は収納式です。

ブレーキレバー／クラッチレバーの握り調整

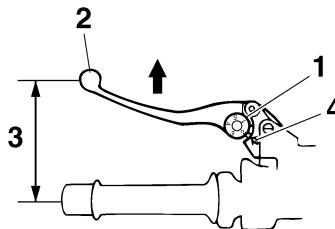
手の大きさに合わせて、ブレーキレバー、クラッチレバーの握り幅が5段階に調整できます。

握り幅の調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。



1. グリップアジャスター
2. ブレーキレバー
3. 握り幅
4. 矢印マーク

JAU29821



1. グリップアジャスター
2. クラッチレバー
3. 握り幅
4. 矢印マーク

要 点

アジャスターの数字と矢印マークを、必ず合わせてください。

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要 点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては3-19 ページを参照してください。)

JWA11530

⚠ 警 告

サイドスタンドをおろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するように設計されています。従って、以下のように定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

各部の取り扱いと操作

JAU44902

イグニッションサーキットカット オフシステム

イグニッションサーキットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチ、クラッチスイッチおよびニュートラルスイッチを含む）には次の機能があります。

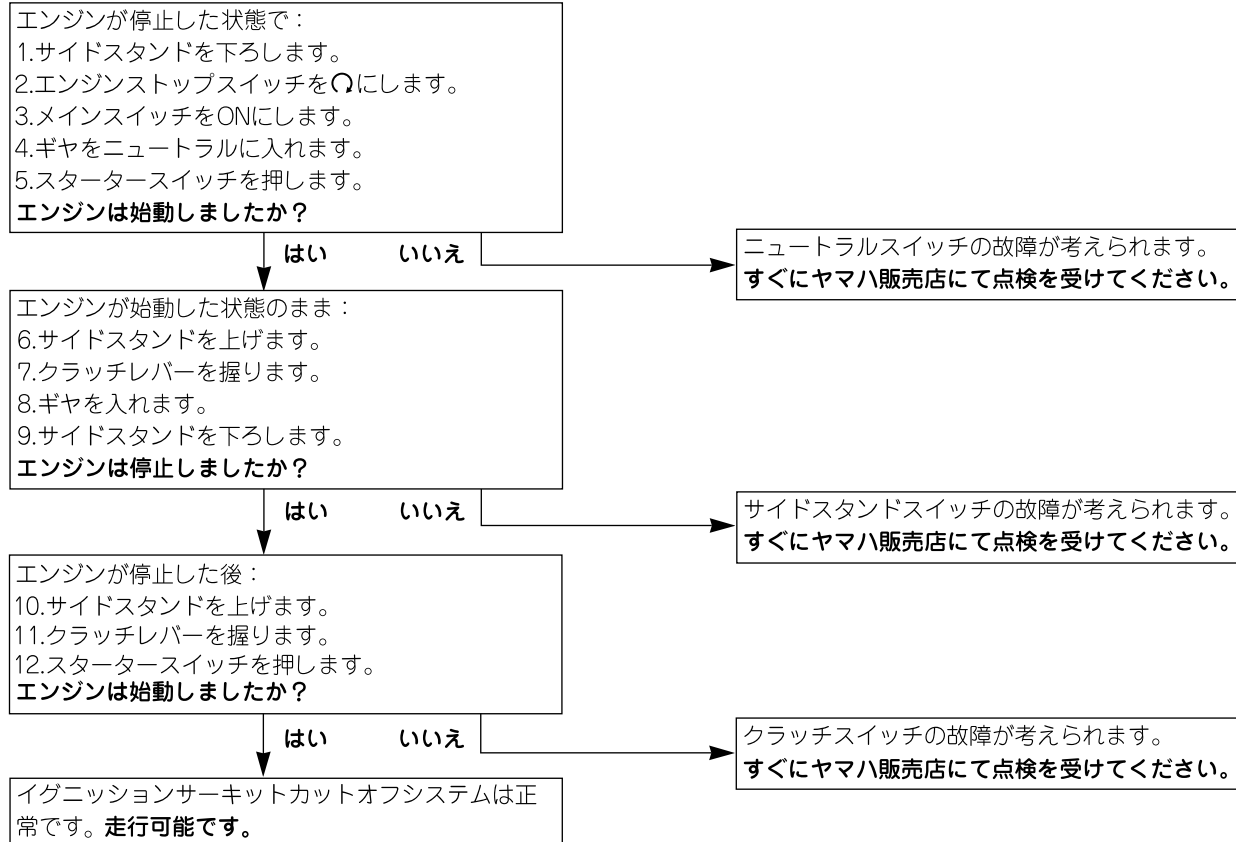
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドが上げてあるが、クラッチレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、クラッチレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドを下げるとエンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11550

警告

- 点検中はメインスタンドを立ててください。
- 点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。



日常点検

JAU15596

JAU30062

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、道路運送車両法で日常点検を行うことが義務づけられています。

運転する前に必ず実施してください。

JWA12031

⚠ 警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適切であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適切であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期（長距離走行時や洗車、給油後など）に実施をしてください。

JWA11732

⚠ 警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JAU46632

JAU33727

JCA15991

要 点

- この車は、以下の機構を装備しています。
- メインスイッチが“ON”のときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させます。このとき、マルチファンクションディスプレイにエラーコード“30”を表示しますが、故障ではありません。また、この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりになることがありますので、このような状態になった場合は**メインスイッチを一旦“OFF”にして、再度“ON”にするリセット操作**をしてください。このリセット操作を行うと、エラーコード“30”も表示されなくなります。
 - 車両が停止した状態で 20 分以上エンジンがかかったままになっていると、エンジンを停止させます。このとき、マルチファンクションディスプレイにエラーコード“70”を表示しますが、故障ではありません。この機能でエンジンが停止した場合は、スタータースイッチを押せば再始動が可能です。

エンジン始動

警告

- エンジンを始動するときには、3-19 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検してください。
- サイドスタンドをおろした状態で走行しないでください。

1. メインスイッチを ON にし、エンジンストップスイッチが○にセットされていることを確認します。
2. ギヤをニュートラルにします。

要 点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

3. スロットルを完全に閉めます。
4. スタータースイッチを押して、エンジンを始動します。

要 点

スタータースイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

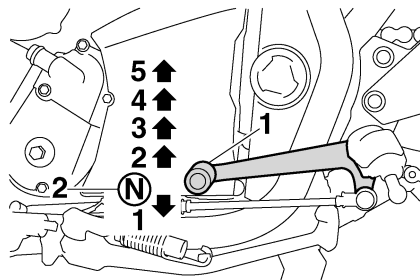
注意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ふかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドリング回転数を必要以上に高くした状態（アイドルアジャスターの誤った調整や、スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンまたは車両が損傷する場合があります。

運転操作

ギヤチェンジのしかた

JAU27511



1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車はリターン式の5段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

JCA12030

注意

- シフトペダルは、足ごたえがあるまで確実に操作してください。
- クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

ならし運転

JAU31470

ならし運転のしかた

JAU27660

初回1か月目（または1000km走行まで）の点検までは、ならし運転をしてください。
ならし運転中はエンジン回転数を5700 r/min以下で走行してください。
また、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。
ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

駐車

JAU17213

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JWA11581

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

点検整備の実施

JAU29835

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、運転する前に実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1年点検と2年点検の2種類があります。

定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12054



警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。

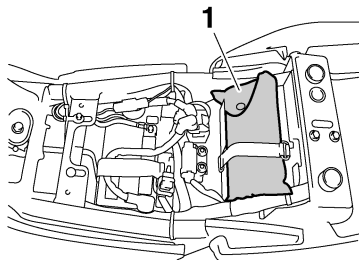
- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせて範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。
- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - ・ 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
 - ・ エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
 - ・ 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。
 - ・ 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
 - ・ 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

サービスツール

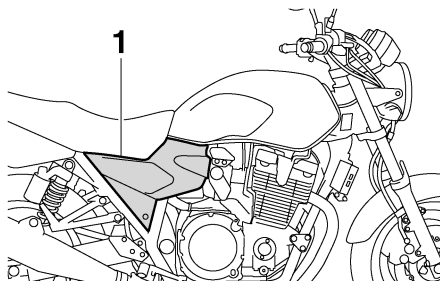


1. サービスツール

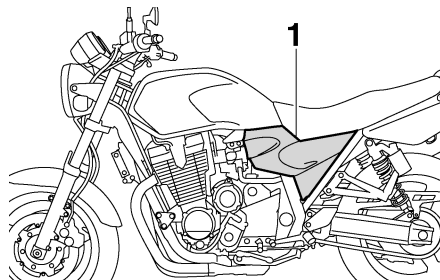
サービスツールはシートの下側にあります。
(3-11 ページ参照)

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



1. カバー A

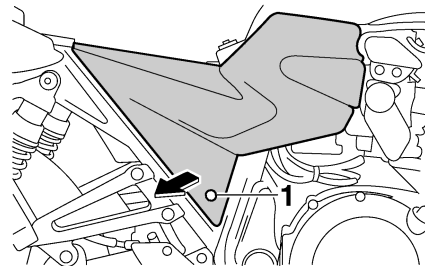


1. カバー B

カバー A / B

カバーの取り外しかた

1. シートを取り外します。(3-11 ページ参照)
2. ボルトを外し、図のようにカバーを取り外します。



1. ボルト

カバーの取り付けかた

1. カバーをもとの位置に取り付け、ボルトを締め付けます。

JAU30451

エンジンオイル

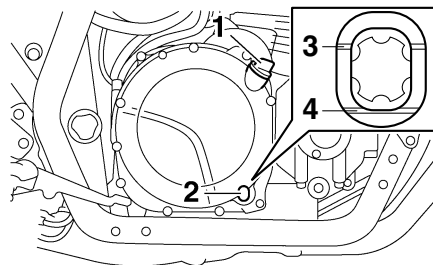
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンが十分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めてメインスタンドを立て（車を垂直にする）、2～3分後、オイル点検窓からエンジンオイル量を点検します。



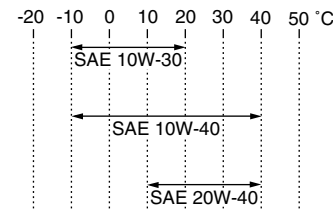
1. オイル注入口
2. エンジンオイル点検窓
3. フルレベル
4. ロアレベル

3. オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。

<推奨エンジンオイル>

	SAE	JASO
ヤマハ純正オイル エフェロプレミアム	10W-40	MA
ヤマハ純正オイル エフェロスポーツ	10W-40	MA
ヤマハ純正オイル エフェロベーシック	20W-40 または 10W-30	MA

エンジンオイルの粘度は、外気温によって表を参考にして使いわけてください。



点検整備

エンジンオイルの交換時期

JAU47210

初 回：

1 か月点検時または 1000km 時

2 回目以降：

6000km 走行毎または 1 年毎

定期交換時オイル量：

オイルフィルターエレメント無交換
時：2.80 L

オイルフィルターエレメント交換
時：3.15 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

オイルフィルターの交換時期

初 回：

1 か月点検時または 1000km 時

2 回目以降：

18000km 走行毎

JWA11860



警告

- 走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12100

注意

- 化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルエフェロ FX をこの車に使用しないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

JAU30690

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がしないかを点検します。

低速、加速の状態の点検

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストップ（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

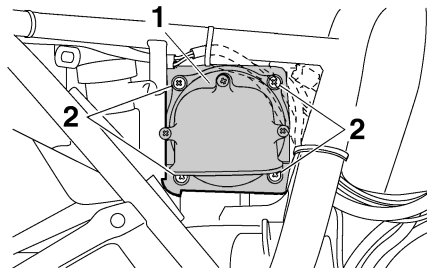
JAU44190

エアクリーナーエレメントの交換

エアクリーナーエレメントは定期的に点検し、汚れや破れなどがあるときは交換してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換してください。

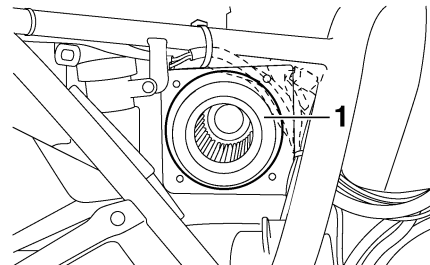
エアクリーナーエレメントの交換

1. カバー A を外します。（6-2 ページ参照）
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



1. エアクリーナーケースカバー
2. スクリュー
3. エアクリーナーエレメントを取り外します。

JAU43350



1. エアクリーナーエレメント

4. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。
5. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
6. カバーを取り付けます。

JCA15750

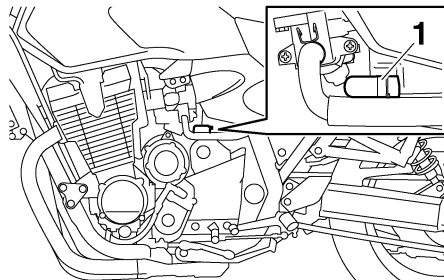
注意

- エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。
- 洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。
- 著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、交換を行ってください。

点検整備

ブローバイガス還元装置のブリーザーダレンホースの清掃

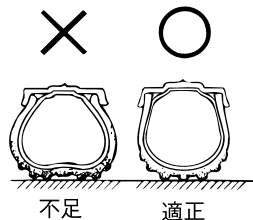
1. ブリーザーダレンホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。



1. ブローバイガス還元装置のブリーザーダレンホース
2. 汚れや水があった場合は、ブリーザーダレンホースを取り外して清掃し、元に戻します。

タイヤ

空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着してあります。

JAU31024

タイヤ空気圧（冷間時）：

1名乗車：

前輪：250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：250 kPa (2.50 kgf/cm²)

2名乗車：

前輪：250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：290 kPa (2.90 kgf/cm²)

高速走行（1名乗車）：

前輪：250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：290 kPa (2.90 kgf/cm²)

高速走行（2名乗車）：

前輪：250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：290 kPa (2.90 kgf/cm²)

要 点

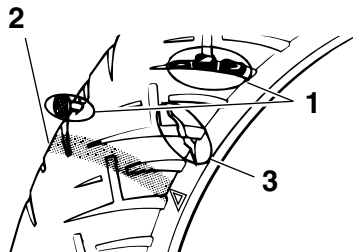
- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。
- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

タイヤの亀裂、損傷の点検

JAU28641

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。

この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越えたときは、必ず点検してください。

タイヤの異常な摩耗

JAU28700

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28773

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要 点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 0.8 mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6 mm、後輪 2.0 mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11912

警告

- **タイヤを交換するときは必ず、指定タイヤを使用してください。指定タイヤ以外のタイヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので、使用しないでください。**
- **過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。**

- **タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。**

タイヤサイズ：

前輪：
120/70 ZR17M/C (58W)
後輪：
180/55 ZR17M/C (73W)

指定タイヤ：

前輪：
DUNLOP/D252F
後輪：
DUNLOP/D252

点検整備

クラッチ

JAU28890

クラッチレバーの遊びの点検

クラッチレバーの遊びは無調整式です。クラッチレバーを手で作動させ、手ごたえを感じるかどうか確認します。

JWA11790

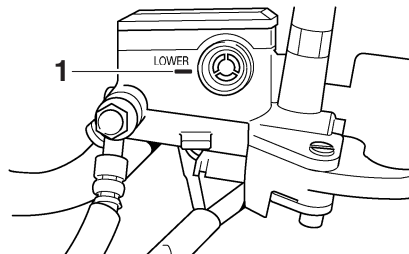


警告

クラッチレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU29040

クラッチリザーバータンク液量の点検



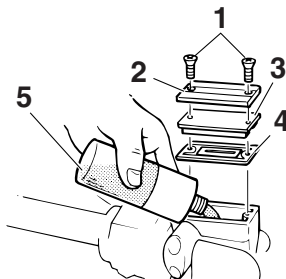
1. ロアレベル

マスターシリンダーキャップ上面を水平にして、クラッチリザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

クラッチ液の補給

JAU29091

1. リザーバータンクのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを取り外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. クラッチ液をロアレベル以上補給します。



1. スクリュー
2. キャップ
3. ダイヤフラムブッシュ
4. ダイヤフラム
5. クラッチ液

4. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。

指定クラッチ液：

ヤマハ純正ブレーキフルード B F - 4
(DOT - 4)

注意

- クラッチ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないように充分注意してください。
- クラッチ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときにあふれます。
- 液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- クラッチ液の変質を防ぐため、他銘柄を混入させないでください。
- クラッチ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。
- クラッチ液は安全のために2年ごとの交換をおすすめします。

JCA12341

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

JAU31120

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びは無調整式です。ブレーキレバーおよびブレーキペダルを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11740

警告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11760

警告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

ブレーキランプスイッチ

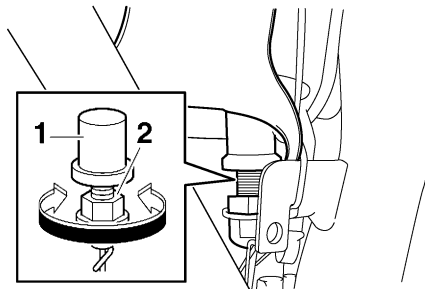
JAU22293

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。

フロントブレーキをかけたときもブレーキランプが点灯するか点検します。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

リヤブレーキランプスイッチの調整

1. カバー A を取り外します。(6-2 ページ参照)
2. スイッチを指で押さえ、アジャスターを回して調整します。



1. リヤブレーキランプスイッチ
2. アジャスター

JCA12080

注意

リヤブレーキランプスイッチを調整するときは、スイッチ本体を回さないでください。スイッチ本体を回すと、リード線を傷付けます。

3. カバーを取り付けます。

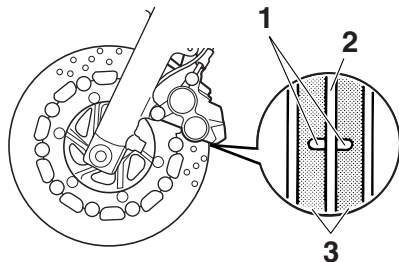
点検整備

JAU29580

ブレーキパッドの点検

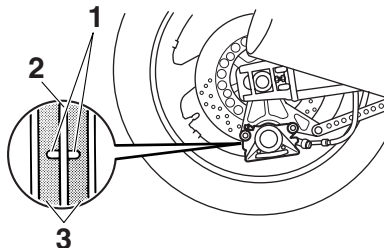
ブレーキパッドのインジケーター溝の深さで摩耗の状態を点検します。
インジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

フロントブレーキ



- 1. インジケーター溝
- 2. ブレーキディスク
- 3. ブレーキパッド

リヤブレーキ

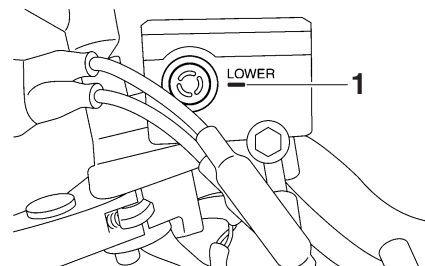


- 1. インジケーター溝
- 2. ブレーキディスク
- 3. ブレーキパッド

JAU30112

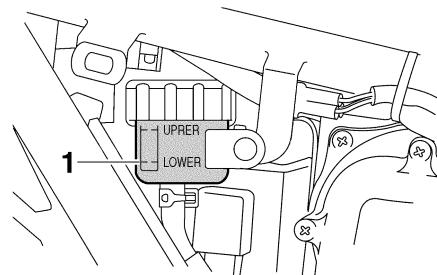
ブレーキ液量の点検

フロントブレーキ



- 1. ロアレベル

リヤブレーキ



- 1. ロアレベル

マスターシリンダーキャップ（リザーバータンクキャップ）上面を水平にして、ブレーキリザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

(ブレーキ液の補給は、6-11 ページ参照)
 リヤのブレーキリザーバタンクの液量の点検は、カバーAを取り外して行います。(6-2 ページ参照)

JWA12150

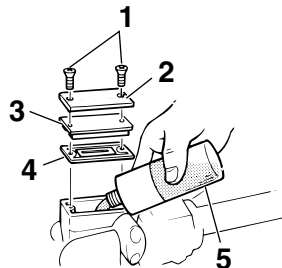
警告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキシステムの液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキ液の補給

<フロントブレーキ>

1. リザーバタンクのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。



1. スクリュー
2. キャップ
3. ダイヤフラムブッシュ
4. ダイヤフラム
5. ブレーキ液

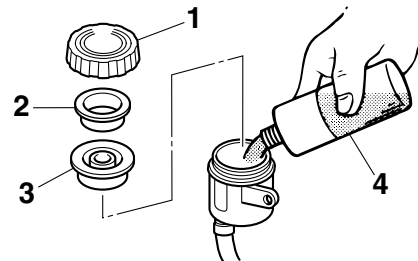
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。

<リヤブレーキ>

1. カバーAを取り外します。(カバーの取り外しは 6-2 ページ参照)

JAU31262

2. リザーバタンクのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
3. キャップを外し、ダイヤフラムブッシュとダイヤフラムを取り外します。
4. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。



1. キャップ
2. ダイヤフラムブッシュ
3. ダイヤフラム
4. ブレーキ液

5. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、キャップを取り付けます。
6. カバーを取り付けます。

指定ブレーキ液：

ヤマハ純正ブレーキフルード B F - 4
 (DOT - 4)

点検整備

警告

- ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバータンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。
- 液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために2年毎に交換してください。

JWA12071

6

注意

- ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。
- ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

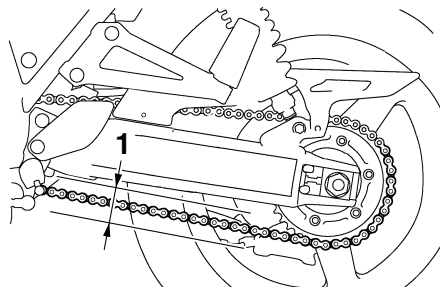
JCA12330

ドライブチェーン

JAU22760

ドライブチェーンの点検

JAU22793



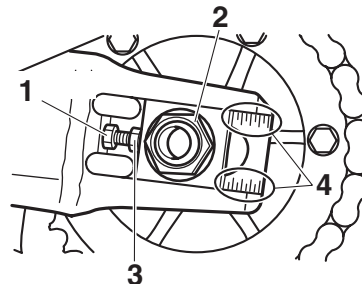
1. ドライブチェーンのたわみ量

メインスタンドを立て、前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

また、リヤホイールを浮かし、タイヤを手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

ドライブチェーンたわみ量：
20.0–30.0 mm

2. ロックナットをゆるめて、チェーンの張り具合が規定値になるようにアジャスターで調整します。



1. ロックナット
2. セルフロックングナット
3. アジャスター
4. 刻み目盛り

要点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、ロックナットとセルフロックングナットを確実に締め付けます。

JAU22934

チェーンの張り調整

1. セルフロックングナットをゆるめます。

JAU23024

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、MEスーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにME-180 チェーンオイルを給油します。

JCA12470

注意

この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。

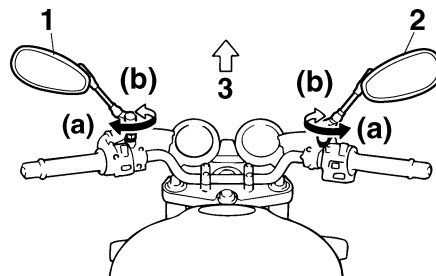
- スチーム洗浄はしないでください。
- シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。

JAU43280

バックミラー

バックミラーの取り付けおよび取り外しかた

- 右バックミラーは左ネジです。反時計回り (a) に回すと締まります。時計回り (b) に回すとゆるみます。
- 左バックミラーは右ネジです。時計回り (a) に回すと締まります。反時計回り (b) に回すとゆるみます。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 進行方向

JAU28620

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であることを点検します。

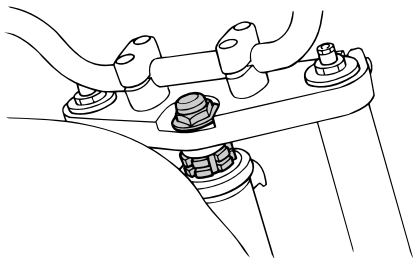
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

点検整備

JAU28650

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングシステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



6

締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

バッテリー

JAU28761

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。

バッテリー液の補充、点検は不要です。バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11810

⚠ 警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12141

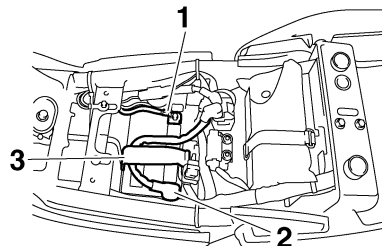
注意

- このバッテリーは密閉式の 12V です。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU28790

バッテリーの取り外し

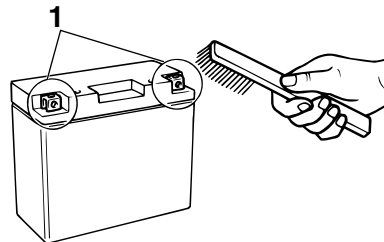
1. シートを取り外します。（3-11 ページ参照）
2. バッテリーバンドを外します。
3. -（マイナス）側リード線を外し、次に +（プラス）側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



1. -リード線
2. +リード線
3. バッテリーバンド

バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。



1. ターミナル

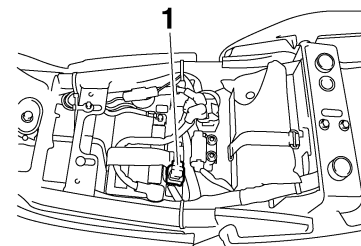
ターミナル部の清掃

JAU29410

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。

ヒューズ交換

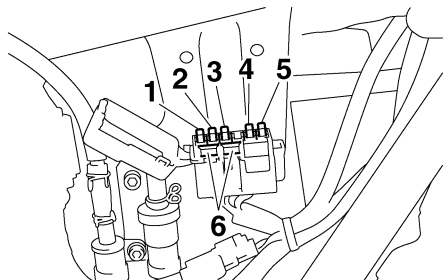
メインヒューズはシート下にあります。(3-11 ページ参照)



1. メインヒューズ

ヒューズボックスはカバーBを外したところにあります。(6-2 ページ参照)

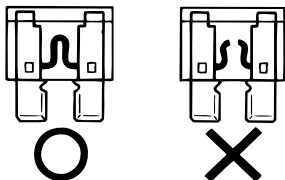
点検整備



1. ヘッドライトヒューズ
2. シグナルヒューズ
3. イグニッションヒューズ
4. フューエルインジェクションヒューズ
5. バックアップヒューズ (オドメーター／時計／イモビライザーシステム)
6. スペアヒューズ

ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



メインヒューズ：
50.0 A
ヘッドライトヒューズ：
15.0 A
シグナルシステムヒューズ：
15.0 A
イグニッションヒューズ：
15.0 A
フューエルインジェクションヒューズ：
15.0 A
バックアップヒューズ：
7.5 A

3. メインスイッチを ON にし、装置が正しく作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JCA12861

注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。

- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

JAU29441

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトが良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検 (6-15 ページを参照) し、異常がないときは電球を交換 (「製品仕様」のページを参照) してください。

JCA12061

注意

電球は、指定されているワット数・規格のものを使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29570

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

お車の手入れ

JAU35121

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

JCA13081

注意

お車によってはマット塗装が施されています。お車の手入れの前にヤマハ販売店で、どのようなアフターケア用品を使用したら良いか、ご相談することをおすすめします。また、マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

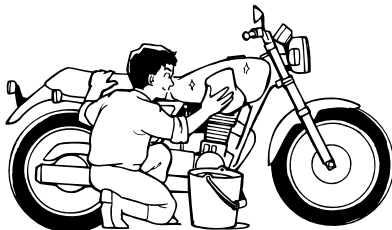
- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックスがけはしないでください。ふき残しなどにより、外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。
- マット塗装部分の補修が必要な場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

JAU27793

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、充分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。



JWA11930

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効が悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効が回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかかわしてください。

- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12213

注意

- エアクリナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリーナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。
- ウィンドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが充分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で

洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。

- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要 点

- シートの下方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。
- 洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッドライトを短時間点灯することで自然に取れます。

キャストホイールの取り扱い

JAU27990

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしないと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11950



変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12220

注 意

- 縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。
- アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。

保管のしかた

JAU35910

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはポディーカバーをかけてください。

なお、ポディーカバーはマフラーが冷えてからかけてください。

JCA13110

注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- 保管する前にワックスがけをしてください。サビを防ぐ効果があります。
 - バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。
 - 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。
- ※補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

お車の手入れ

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

JAU28081

4 サイクルオイルエフェロプレミアム

高回転・高負荷下でも油膜保持性能が高く、高性能エンジン搭載の中・大型車に最適な高品質オイルです。

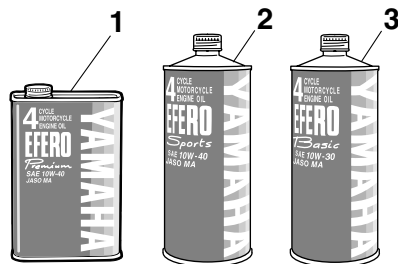
JAU28110

4 サイクルオイルエフェロスポーツ

オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなどでも優れた性能を発揮するマルチタイプのオイルです。

4 サイクルオイルエフェロベーシック

一般走行、業務用に最適なコストパフォーマンスオイルです。



1. エフェロプレミアム
2. エフェロスポーツ
3. エフェロベーシック

ブレーキフルード BF-4

高沸点、防錆性、安定性、ゴム劣化防止性に優れたブレーキフルードです。

JAU28200



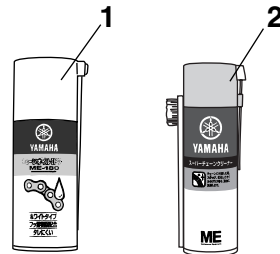
ME-180 チェーンオイル

フッ素樹脂配合により耐摩耗性、耐熱性に優れたチェーンオイルです。“ドライ”と“ウェットムースタイプ”があります。

JAU28220

ME スーパーチェーンクリーナー

チェーンに付着したグリースやオイルなどの油汚れを手軽に素早くクリーニングします。



1. ME-180 チェーンオイル
2. ME スーパーチェーンクリーナー

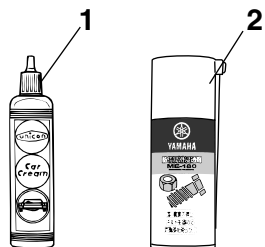
ユニコンカークリーム (ワックス)

塗装面の汚れを簡単にとり、手間をかけずに美しい光沢が得られます。また、どんな塗装にも使用できる伸びのよいワックスです。

JAU28360

ME-180 (防錆潤滑剤)

防錆、潤滑、防湿、浸透性に優れた金属保護液です。



1. ユニコンカークリーム
2. ME-180 (防錆潤滑剤)

製品仕様

寸法：	最小回転半径：	トレール：
全長：	2800 mm	100.0 mm
2175 mm	最高出力：	ステアリングシステム：
全幅：	74 kW@8000 r/min (100 PS@8000	ハンドル切れ角（左）：
765 mm	r/min)	37.0°
全高：	最大トルク：	ハンドル切れ角（右）：
1115 mm	108 Nm@6000 r/min (11.0 kgf-m@6000	37.0°
シート高：	r/min)	燃料：
795 mm	エンジン：	フューエルタンク容量：
軸間距離：	原動機種類：	21.0 L
1500 mm	4 ストローク 空冷 DOHC	予備容量：
最低地上高：	気筒数・配列：	4.5 L
125 mm	直列 4 気筒横置	フロントブレーキ：
重量：	総排気量：	ブレーキ形式：
車両重量：	1250 cm ³	油圧式ダブルディスクブレーキ
245.0 kg	内径 × 行程：	リヤブレーキ：
分布荷重（前）：	79.0 × 63.8 mm	ブレーキ形式：
119.0 kg	圧縮比：	油圧式シングルディスクブレーキ
分布荷重（後）：	9.70 : 1	懸架方式：
126.0 kg	エアフィルターエレメント：	種類（前）：
車両総重量：	湿式ろ紙	テレスコピック
355 kg	クラッチ形式：	種類（後）：
分布荷重（前）：	湿式多板	スイングアーム
139 kg	ミッション・チェンジ方式：	緩衝方式：
分布荷重（後）：	常時噛み合式 5 速	ショックアブソーバータイプ（前）：
216 kg	始動方式：	コイルスプリング / オイルダンパー
乗車定員：	セル式	ショックアブソーバータイプ（後）：
2 名	車体：	コイルスプリング / ガスオイルダンパー
性能：	フレーム形式：	フロントタイヤ：
定地燃費（国土交通省届出値）：	ダブルクレードル	種類：
21.0 km/L/60 km/h	キャスト：	チューブレス
	25.50°	

サイズ：
120/70 ZR17M/C (58W)
メーカー / 銘柄：
DUNLOP/D252F

リヤタイヤ：

種類：
チューブレス
サイズ：
180/55 ZR17M/C (73W)
メーカー / 銘柄：
DUNLOP/D252

トランスミッション：

1 次減速比：
98/56 (1.750)
1 速：
40/14 (2.857)
2 速：
36/18 (2.000)
3 速：
33/21 (1.571)
4 速：
31/24 (1.292)
5 速：
29/26 (1.115)
2 次減速比：
38/17 (2.235)

エレクトリカル：

点火方式：
TCI (デジタル進角)

ヘッドライト：

ヘッドライト球：
ハロゲンバルブ

バルブワット数 x 個数：

ヘッドライト：
12 V, 60 W/55 W x 1
テール / ブレーキランプ：
LED

方向指示灯 (前)：
12 V, 21.0 W x 2
方向指示灯 (後)：
12 V, 21.0 W x 2

番号灯：
12 V, 5.0 W x 1

メーター灯：
LED

パイロットランプワット数 x 個数：

ニュートラルランプ：
12 V, 1.7 W x 1

方向指示器表示灯：
12 V, 1.7 W x 2

オイル残量警告灯：
12 V, 1.7 W x 1

ヘッドライト上向き表示灯：
12 V, 1.7 W x 1

エンジン警告灯：
12 V, 1.7 W x 1

イモビライザーシステム表示灯：
LED

エンジンオイル：

推奨オイル：
ヤマハ 4 サイクルオイルエフェロ プレ
ミアム、スポーツ、ベーシック

エンジンオイル量：

オイルフィルターエレメント無交換時：
2.80 L
オイルフィルターエレメント交換時：
3.15 L

ドライブチェーン：

たわみ量：
20.0–30.0 mm

ケーブルとレバーの遊び：

スロットルケーブル遊び：
3.0–5.0 mm

フロントディスクブレーキ：

パッド厚さ (内側)：
5.5 mm

使用限度：
0.5 mm

パッド厚さ (外側)：
5.5 mm

使用限度：
0.5 mm

指定ブレーキフルード：
BF-4 (DOT 4)

リヤディスクブレーキ：

パッド厚さ (内側)：
5.5 mm

使用限度：
0.5 mm

パッド厚さ (外側)：
5.5 mm

使用限度：
0.5 mm

製品仕様

指定ブレーキフルード：

BF-4 (DOT 4)

ホイールトラベル：

ホイールトラベル（前）：

130.0 mm

ホイールトラベル（後）：

110.0 mm

タイヤ空気圧（冷間時）：

前輪（1名乗車）：

250 kPa (2.50 kgf/cm²)

後輪（1名乗車）：

250 kPa (2.50 kgf/cm²)

前輪（2名乗車）：

250 kPa (2.50 kgf/cm²)

後輪（2名乗車）：

290 kPa (2.90 kgf/cm²)

高速走行：

前輪（1名乗車）：

250 kPa (2.50 kgf/cm²)

後輪（1名乗車）：

290 kPa (2.90 kgf/cm²)

前輪（2名乗車）：

250 kPa (2.50 kgf/cm²)

後輪（2名乗車）：

290 kPa (2.90 kgf/cm²)

バッテリー：

バッテリー型式：

YTZ14S

バッテリー容量：

12 V, 11.2 Ah

点火タイミング：

点火時期（B. T. D. C.）：

5.0° /1070 r/min

スパークプラグ：

メーカー / 型式：

NGK/DPR8EA-9

プラグギャップ：

0.8–0.9 mm

ヒューズ容量：

メイン：

50.0 A

ヘッドライト：

15.0 A

シグナル：

15.0 A

イグニッション：

15.0 A

フューエルインジェクション：

15.0 A

バックアップ：

7.5 A

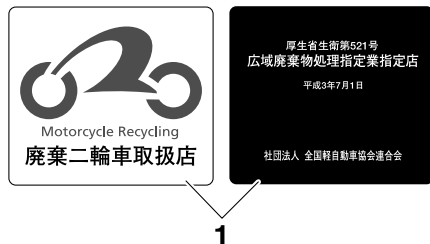
二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

(社)全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭に「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1. 廃棄二輪車取扱店の証

JAU36640

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

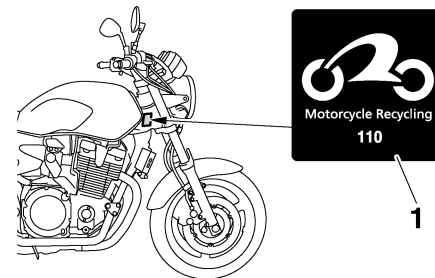
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうか不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。

(財)自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/>

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号 03-3598-8075

受付時間 9時30分～17時00分(土・日・祝日・年末年始等を除く)

ユーザー情報

サービスマニュアル（別売）の紹介

JAU28391

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

XJR1300 サービスマニュアル 部品番号：

QQS-CLT-000-5UX

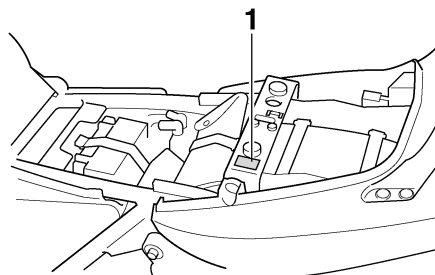
車両情報

JAU28450

モデルラベル パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、シート下のフレームに貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えてください。

車名は

XJR1300

モデルラベル

製品仕様を示しています。

○

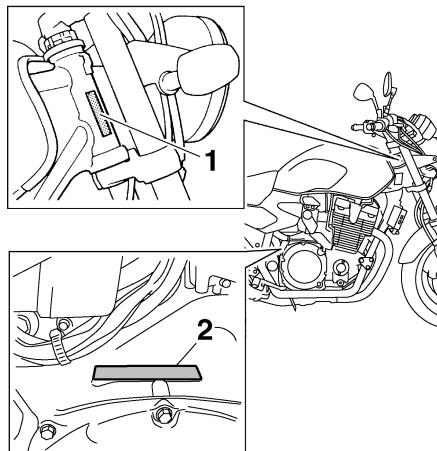
カラーリングを示しています。

●

車台番号、原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。



1. 車台番号
2. 原動機番号

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。

QQS-CLT-110-5UX

再生紙を使用しています



PRINTED IN JAPAN
2009.07-0.3×2 CR
(J)